

アスファルトシングル改修仕様 施工計画要領書

アスファルト塗膜シート防水シングル改修(珪砂仕様)工法

NWW-K01-TS工法

(旧 NWO-200-07工法)

EMS 81566 / ISO 14001:2015 (本社・関工場)
FM 659551 / ISO 9001:2015 (本社・関工場)

(防水施工業者)

社 名 を 入 力

本 社 : 〒 住所を入力

(防水材料製造業者)

成瀬化学株式会社

本 社 ・ 工 場 : 〒519-1107 三重県亀山市関町木崎1703-3

東 京 本 店 : 〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-7

名古屋営業所 : 〒451-0052 愛知県名古屋市西区栄生1-35-20

大阪営業所 : 〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4-5-5 マーキス梅田ビル603

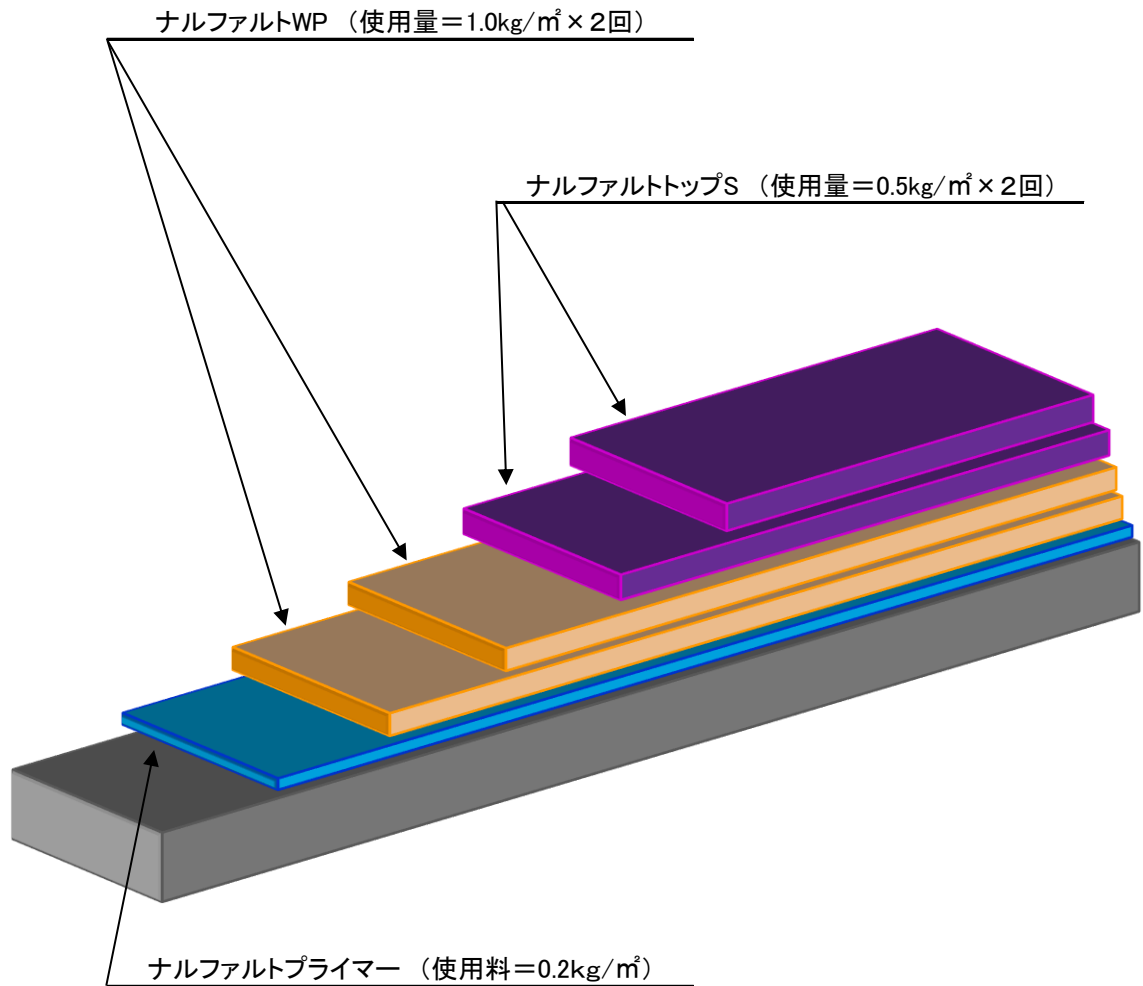
沖縄出張所 : 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地1-1-1

目 次

- | | | |
|---|---|--|
| 1 | ナルファルト塗膜シート防水シングル改修(珪砂仕様)工法
NWW-K01-TS工法 | 1.1 防水仕様 |
| 2 | 施工フローチャート | 2.1 施工フローチャート |
| 3 | 事前確認・準備工事 | 3.1 前処理 |
| 4 | 防水施工 | 4.1 下地コンクリートの清掃
4.2 ナルファルトプライマー塗布
4.3 ナルファルトWP(1回目)
4.4 ナルファルトWP(2回目)
4.5 検査
4.6 防水層の保護
4.7 施工上の注意
4.8 特記事項 |

1.1
防水仕様防水仕様塗布量一覧(kg/m²)

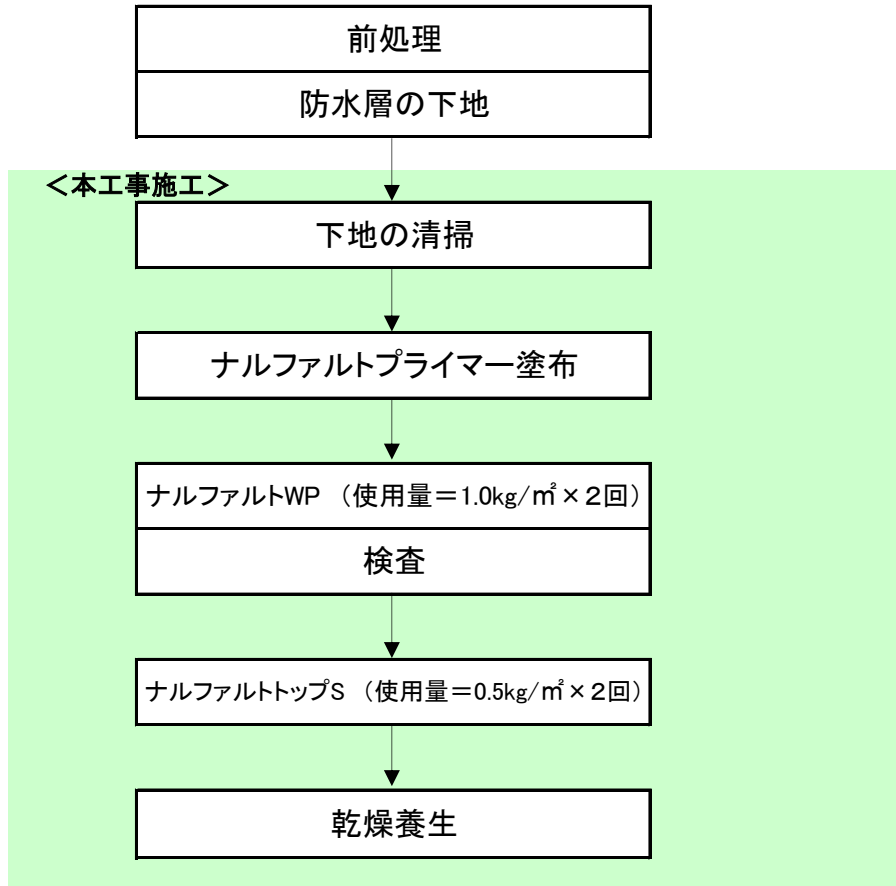
項目	塗布量
ナルファルトプライマー	0.2
ナルファルトWP	1.0 × 2回
ナルファルトトップS	0.5 × 2回



2 施工フローチャート

2.1 施工フローチャート

ナルファルト塗膜シート防水シングル改修(珪砂仕様)工法 NWW-K01-TS工法



3 事前確認・準備工事

3.1 前処理

ナルファルト塗膜シート防水シングル改修(珪砂仕様)工法 NWW-K01-TS工法
上記工法を施工するにあたり、事前に使用範囲に適しているか確認検討する。

3.1.1 下地処理

- ・アスファルトシングルの割れや欠損部は別途差し替え補修を行う。
- ・旧塗装・油分・薬品等は除去し清掃する。

3.1.2 高圧水洗浄

高圧水にて表面洗浄を行い、コケ・泥・汚れなどをしっかりと除去する。

3.1.3 下地調整

- ・差し替えを要しない小さな欠損は補修材で成型補修する。
- ・ナルファルトWPIはアスファルトシングルに直接接着できるので、接着力補完のため、別の下地調整材の塗布は不要。
- ・既存のシール材は除去し後述の特記事項に記載されているシール材で打ち替える。

4 防水施工

4.1
下地コンクリートの清掃

防水下地のホコリなどを除去する。

4.2
ナルファルトプライマー塗布

4.2.1 ナルファルトプライマー（使用量=0.2kg/m²）

プライマー塗布に先立ち、下地の清掃を行い乾燥させる。
ナルファルトプライマー(2kg入り)をそのまま別容器にあける。

4.2.2 塗布手順

塗り付けは刷毛・ローラーで1回とし、塗布端末まで均一に塗り付けて乾燥させる。

- ※1 塗布量が多くなると、乾燥時間が長くなる。
- ※2 コーナー部に液溜りがある場合は刷毛で均一になるようにする。

4 防水施工

4.3 ナルファルトWP(1回目)

4.3.1 ナルファルトWP (使用量=1.0kg/m²)

4.3.1.1 事前確認

ナルファルトプライマーが乾燥しているか確認する。

4.3.1.2 塗布工

- a) ナルファルトWPは一液タイプなので、開封後直ぐ施工できる。
- b) ナルファルトWPを刷毛、コテ、ローラー等を使用して平坦に塗布する。
- c) 硬化促進させる場合、必ずセメントを混入すること。
その際のセメント重量比は夏場は0.5%、冬場は1%である。
但し夏場の外気温が上昇して可使時間が短くなる場合は重量比0.3%まで下げる。
セメントは同量の清水で溶いてノロにして混合し、ハンドミキサーでよく攪拌する。

4.3.1.4 乾燥養生

ナルファルトWP塗布完了後、通気乾燥を十分に行う。

4.4 ナルファルトWP(2回目)

4.4.1 ナルファルトWP (使用量=1.0kg/m²)

4.4.1.1 塗布工

- a) 硬化乾燥したナルファルトWPの上から、ナルファルトWP原液を指定使用量に則して刷毛、コテ、ローラー等を使用して塗布する。
 - b) 硬化促進させる場合、必ずセメントを混入すること。
その際のセメント重量比は夏場は0.5%、冬場は1%である。
但し夏場の外気温が上昇して可使時間が短くなる場合は重量比0.3%まで下げる。
セメントは同量の清水で溶いてノロにして混合し、ハンドミキサーでよく攪拌する。
- ※ ナルファルト指定量が1工程で塗布できない場合は、2~3工程に分けて指定量を塗布する。

4.4.1.2 乾燥養生

ナルファルトWP2回目塗布後、十分に乾燥養生させる。

4.5 検査

指触診断

ナルファルトWPの乾燥を確認する際は指触診断を行う。

- a) 指に水を付けナルファルトWP防水層表面を擦り、ナルファルトWPが茶色に戻り指につかないことを確認する。
- b) ナルファルトWPが厚付けされて乾燥の遅い箇所は入念に確認する。

4.6 防水層の保護

露出保護材(トップ仕上げ)

ナルファルトトップSを開封し、ハンドミキサーでよく攪拌する。
ナルファルトトップSを刷毛・ローラー等でムラ無く均一に0.5kg/m²を塗布する。
乾燥後、同様に2回目を0.5kg/m²塗布する。

4 防水施工

4.7 施工上の注意

- 4.7.1 ナルファルトWPは気温5°C以上で保管・施工を行う。
水性のため低温での保管・施工は凍結による機能低下、品質不良を招く恐れがある。
- 4.7.2 施工に際しては標準施工要領書を理解した上で施工する。
- 4.7.3 配管廻り・入り隅部は余分に厚塗りしないように注意する。
- 4.7.4 ナルファルトWPの主成分であるアスファルトは可塑剤に触れると反応して硬化不良を起こすため、シール材に可塑剤が含まれていないことを必ず確認する。(後述、特記事項参照)
ノンブリード型といわれるシール材には微弱の可塑剤を含む商品がある。
ナルファルトWPの塗膜にシールを打つ場合も同様に注意する。
- 4.7.5 屋内・地下外壁・水槽・ピットなど乾燥に時間がかかる場所にナルファルトWPを使用する場合は必ずセメントを混入する。
その際のセメント重量比は夏場は0.5%、冬場は1%である。
但し夏場の外気温が上昇して可使時間が短くなる場合は重量比0.3%まで下げる。
セメントは同量の清水で溶いてノロにして混合し、ハンドミキサーでよく攪拌する。
セメントノロを混入したナルファルトWPは乾燥・硬化が速まる為、1時間以内に使い切る。
- 4.7.6 水希釈(水で薄める)は一切行わない。
水希釈すると機能低下・品質不良(接着力の低下・伸び弾性の低下・乾燥硬化の著しい遅延・膨れの発生・乾燥硬化後の再溶解など)が生じる。
- 4.7.7 屋外施工は天候の良い日を選び、塗布後に降雨・降雪・結露・凍結の恐れのある場合は施工を避ける。
- 4.7.8 翌日に降雨・降雪・凍結の恐れのある場合は夕方近くの施工は避ける。
翌朝に十分な乾燥が得られず流出・凍結する恐れがある。
- 4.7.9 日照の得られない北面や通風の無い個所で乾燥の遅延が予想される場合は、前日の内に施工見合わせを検討する。
- 4.7.10 塗布量が少ないと十分な性能が得られないため、標準塗布量を厳守する。
- 4.7.11 塗布用具は塗布後直ちに水につけて乾燥硬化を防ぐ。
用具の洗浄は水で行い、使用する際は十分に水を切って使用する。
- 4.7.12 水張り検査や保護トップ材を塗布する前にナルファルトWPが十分乾燥硬化したかどうか確認する。
指触診断法(指に水滴をつけてナルファルトWP表面を擦り、再溶解しないことで判定)推奨。
- 4.7.13 乾燥したナルファルトWPの表面に乗る場合は、靴底にナルファルトWPが付着していない靴を履く。
ナルファルトWP同士が接着して塗布した表面を損傷する恐れがある。
- 4.7.14 予期せぬ降雨等によってナルファルトWPが再溶解した場合は、雨上がり後そのまま放置して乾燥硬化を待つ。
溶解(黒色から茶色にもどる)したナルファルトWPに乗ると、損傷が広がる。
十分乾燥硬化した後に、不良箇所に再塗布する手直しを行う。
- 4.7.15 取扱いにあたっては製品安全データシート(MSDS/SDS)を参照する。

ナルファルトWPとシールの相性について
ナルファルトWPは、シール材に含まれる可塑性材によって反応を起こす場合がある。
防水下地及び防水後の取合いのシールは 以下の材料を使用する。

ナルファルトWPと反応しないシール材(可塑性材を含まない)製品

1成分型弾性エポキシ系シール材

横浜ゴム製 エポソフトN

コニシ製 エフレックス

1成分型ポリウレタンシール材

オート化学工業製 オートンシーラー101NB

オート化学工業製 オートンノンブリードQイック

2成分型ポリウレタンシール材

サンスター製 ペンギンシール PU9000タイプNB